

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年10月11日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻

職 名・学 年 博士課程5年

氏 名 砂 野 唯

助 成 の 種 類	平成24年度・国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	(和文)第13回国際民族生物学学会 (英文)13th Congress of the International Society of Ethnobiology		
発 表 題 目	(和文)エチオピア南部デラシェ特別自治区におけるモロコシの利用について -地下貯蔵庫ロタの機能と役割を中心に (英文) The Use of Sorghum in Derashe Area, Ethiopia : Special Reference to Function and Significance of Underground Granary Polota		
開 催 場 所	フランス、ラングエドクルシオン地域圏、エロー県、モンペリエ市		
渡 航 期 間	平成 24年 5月20日 ~ 平成 24年 5月24日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000円	
	使用した助成金額	200,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空運賃	125,000円
		学会参加費用	29,000円
宿泊費		46,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 学生に応募資格がある海外研究集会に関する助成は、多くはございません。京都大学に在籍する学生にとって、学生にも応募資格があり、まとまった助成数のある貴財団の助成制度は、大変ありがたい制度です。今回の学会に参加する機会を与えて下さり、ありがとうございました。		

成果の概要

「13th Congress of the International Society of Ethnobiology」

アジア・アフリカ地域研究研究科 一貫制博士課程 5年 砂野唯

「国際民族生物学学会 (13th Congress of the International Society of Ethnobiology)」は、急速に失われつつある生物多様性や文化遺産の保護を目的として 1988 年に発足された。以来、環境保全や文化遺産の保護、原住民の権利確立などの分野に対して、研究や開発を通して貢献してきた。2 年おきに世界各地で開催される本学会では、生態学や農学、開発学、社会学、文化人類学などに関する 40 組以上のセッションが生まれ、ここでは研究機関や政府機関、民間企業、NGO 団体などに所属する各分野の専門家による約 400 の発表が行われている。第 13 回目に当たる本学会は、フランスのモンペリエ市において 5 月 20 日から 25 日に渡って開催され、15 カ国から約 600 人の研究者が参加して 42 のセッションが行われた。報告者は、「Historical and contemporary changes in importance of food plant use」のセッションで「The Use of Sorghum in Derashe Area, Ethiopia: Special Reference to Function and Significance of Underground Granary *Polota*」について 23 日にポスター発表を行った。このセッションは、アフリカや北米、南米の有用植物や地域住民の植物利用に関する研究を取り扱ったもので、植物学者と地域研究者、NGO 関係者の貴重な意見交換の場となった。報告者の発表では、アフリカ半乾燥地帯におけるモロコシとモロコシ用貯蔵庫が果たす役割を生態と社会の面から取りあげた。気候が不順なアフリカの半乾燥地帯の多くでは、耐乾性・耐病勢に優れたモロコシを基幹作物として栽培している。しかし、モロコシは保存中にカビや害虫から受ける食害による貯蔵ロスが深刻であるため、長期貯蔵が難しい。しかし、報告者の調査地であるエチオピア南部デラシェ地域の人々は、在来の地下貯蔵庫ポロタ内に、豊作年に収穫したモロコシを数年間貯蔵することで収穫量の年格差を是正し、モロコシを周年利用している。ポロタは、不透水層を直径 1.5m、深さ 2m のフラスコ状に掘削して作られた地下貯蔵庫であり、昔から地域内で特異的に利用されてきた。ポロタは不透水層に作られているため、気密性が高く、庫内は高温高湿、低酸素高二酸化炭素な空間が維持されている。この低酸素状態が害虫やカビからの食害を防ぎ、高二酸化炭素状態がモロコシの生理作用を抑制し、長期貯蔵を促している。農学関係者や NGO に勤める開発者から、「他の在来貯蔵庫にポロタと同じ環境を作り出すことは可能か?」、「他の種子ではどうか?」といったご質問やご指摘をいただき、今後、ポロタの貯蔵機能に関するさらに詳しい分析の必要性を実感させられた。また、ポスターには載せていなかった研究内容に関しても、アフリカや南米の食糧事情に関する様々な意見をいただきことが出来た。本学会は、私にとって実り多い場となった。本学会に出席ができませんでしたのも、京都大学教育研究振興財団による援助があつてのことです。今後、研究を続けるうえで貴重な機会を与えていただきましたことをあつくお礼申しあげます。